

課題番号	6	分野名	特用林産	予算区分	県単
研究課題名	ワサビの栽培に関する研究				
担当者名	谷山 奈緒美		研究期間	平成18～22年度	

目的

平成14年度に農薬取締法が改正され、沢ワサビには農薬が使用できなくなった。このため、農薬に代わる害虫防除法について強い要望がある。そこで、大型の木枠型ネットを利用した害虫防除対策について調査を実施した。

方法

1 試験区

佐野市野上地内：平成20年4月9日に植栽，設定した調査区（対照区2面、面積80×100cm高さ130cmの木枠型ネット区を1面，面積80×100cm高さ110cmの木枠型ネット区を1面，1面あたりワサビ苗9本）とし，対照区とネット区にそれぞれ1面ずつ計2面にVU管を埋設（長さ8cmのうち地上部は3cm）している。

これまでに当試験地において，照度確保などの生育環境の改善を行った結果，昨年度は，ドーム型ネットの高さ（50cm、80cm）よりもワサビの茎葉高が高くなり，ネット内での茎葉の生育が妨げられたうえ，調査等のためにネットをはずす際，害虫が水流に浮かんでワサビに乗り移り一部被害を受けたため，茎葉の生育を妨げずに被覆効果を高め，ネットを外さないで調査できる大型の木枠型ネットを設置した。

2 調査方法

葉生育状況調査：7月と10月に虫害による被害状況を株毎に観察し，葉ワサビとして販売可能かどうか調査した。

根茎生育状況調査：12月に根茎を収穫して株毎の重量を計測し，虫害による葉の被害が根茎の収量に与える影響を調査した。

結果概要

1 葉生育状況調査

各試験区の苗の生存本数及び葉の生育状況を表-1に示す。対照区よりもネット区の方が害虫による葉の被害は少なく，葉ワサビとして販売可能な株数が多かった。防虫ネットを設置することで，カブラハバチ（クロムシ），スジクロモンシロチョウ（アオムシ），コナガ，メイガなどの飛翔性昆虫に対して高い防虫効果を得ることが確認できた。ネットは，ドーム型や大型木枠型などの形状によらず，葉の虫害を減少させることが分かった。

2 根茎生育状況調査

各試験区の根茎の収穫重量計及び1株当たりの収穫重量を表-1に示す。どちらも対照区が一番多い結果となった。その他の試験区においては大きな差は見られなかった。このことから，葉が受ける虫害は根茎の生育に大きな影響を与えないことが示唆されたが，生育が旺盛な

時期に防虫対策を講

表-1 各試験区毎の苗の生存本数、葉生育状況及び根茎収穫重量
 じることでより品質の高いワサビ生産が可能になると考えられる。ワサビ苗の生育向上試験として設置したVU管については，根茎が生長してくるとVU管に当たって変形するものもあり効果はほとんど認められなかった。

試験区	苗の生存本数(本)	葉生育状況		根茎収穫重量計(g)	1株当たりの収穫重量(g)
		葉ワサビとして販売可能な株数(株)			
		7月	10月		
対照区 (VU管無し)	7	0	2	2,226	318
ネット区 (VU管有り)	8	4	4	606	76
ネット区 (VU管無し)	8	4	3	562	70
対照区 (VU管有り)	8	0	0	679	85